メルボルン大学との技術職員連携強化

4月22日（月）～24日（水）の3日間、本学の戦略的国際パートナー校であるメルボルン大学の理学部化学・地球環境科学微量解析部門（TrACEES）部門長のアレックス・デュアン博士、国際サポート職員の下田実加氏が、グローバルファシリティセンターを訪問しました。

本訪問は、1月18日（木）に北大技術支援・設備共用コアステーション（CoSMOS）が主催した「第1回北海道大学コアファシリティシンポジウム」に下田氏を講演者として招へいしたことに端を発します。

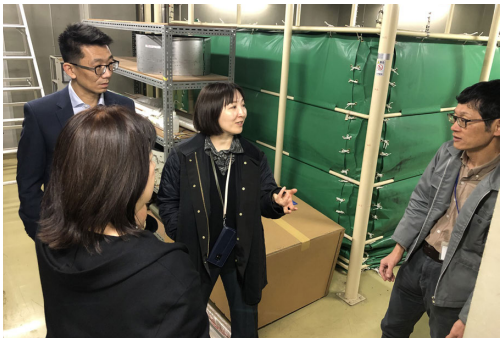
豪州トップの研究大学であるメルボルン大学には、研究実験設備の管理・運営を担うため複数のプラットフォームが組織されています。TrACEESは理学部のプラットフォームであり、この組織の取りまとめ役であるデュアン博士より、運営、設備管理・運用、人材育成、課題と展望について、お話を伺いました。グローバルファシリティセンターと技術支援本部のメンバーが集まった打ち合わせ及び意見交換では、予算が限られたなかでターゲットとする技術職員人材を獲得し育成する難しさ、利用ニーズの高い機器の共用化と部局側の希望の調整、それに伴う予算繰り、効率的なアフターケアサービスのあり方等々について、国は違っても共通する課題や方向性の共有が行われました。

デュアン博士には本学理学研究院の機械工作室、ガラス工室、薄片技術室、ヘリウムを再利用する極低温度液化センター、同位体顕微鏡システム等も訪問見学していただき、それぞれ長年研究支援に携わり、実験機器を発明するベテラン技術職員たちの説明をお聞きいただきました。また、理学研究院の化学部門、物理部門の教員との意見交換を行い、学術イベントの可能性も探る機会となりました。

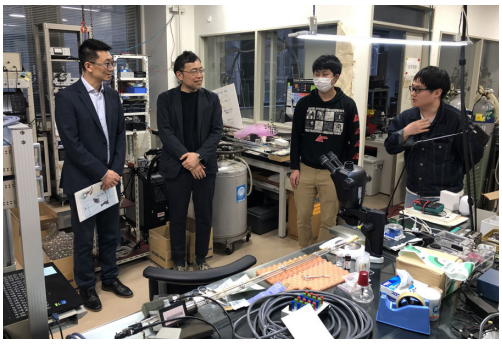
教員と学生双方の活動に密に関わる教育研究支援システムを運営するにあたって、両大学が情報、知識、経験を共有していくことの重要性が示され、今後の連携拡大も期待されます。

（グローバルファシリティセンター、技術支援本部、理学研究院、国際連携推進本部）

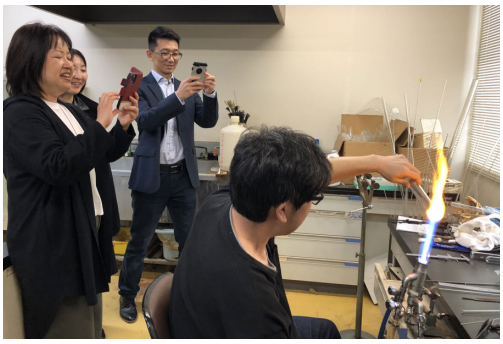
訪問者2名との集合写真
（右から2人目がデュアン博士、3人目が下田氏）



極低温度液化センター



Jマテリアル実験室



ガラス工室